

Ⅱ 教育課題

第5分科会

豊かな人間性

■ 研究課題 ■

豊かな人間性を育む教育課程と校長の在り方

分科会の趣旨

子どもたちが、自らを律しつつ、自己を確立し、他人を思いやる心や感動する心をもつ豊かな人間性を備えた人として育ち、自分らしく主体的に生きていくことは、社会全体の願いである。このような豊かな人間性の育成を図る基盤として道徳教育や人権教育がある。

道徳教育の視点からは、自制心や規範意識の希薄化等の心の状況に関わる課題や、現実から逃避し、今の自分さえ良ければよいという利己的な考えに陥りがちな子どもの現状が課題として指摘されている。その背景には、子どもを取り巻く環境の変化、特に家庭や地域社会における教育力の低下等の状況や、いじめ・暴力行為・不登校等の子どもたちが安心して学べる環境に関わる問題がある。これからの道徳教育は、こうした課題やその背景を視野に入れ、子どもたちが夢や希望をもって未来を拓き、人間としてよりよく生きようとする力が育成されるよう指導の一層の充実を図っていかねばならない。

また、人権教育の視点からは、子どもたちが人権尊重の理念についての正しい理解や実践する態度が十分身に付いていないことが指摘されている。加えて、教職員にも人権尊重の理念についての理解が不十分であることや指導方法が十分身に付いていないなどの課題がある。こうした課題の解決のためには、子どもたちに人間と生命の価値を自覚し尊重することや、人と調和して共に生きること、人の痛みや思いに共感することなどを育む心に響く人権教育を教育活動全般の中で進めていくことが急務である。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、道徳教育や人権教育など心の教育に係る教育実践を推進するとともに、家庭や地域等と連携・協働した取組を実現し、人間性豊かな日本人を育成するための教育課程の編成・実施・評価・改善について具体的方策を明らかにする。

リーダーシップの視点

(1) 新たな社会を生き抜く人権感覚の育成

未来を担う子どもたちにとって、人が生きていく上で必要な権利を知り、あらゆる差別を許さず、文化・価値観・個性の違いこそが豊かさにつながることにについて認識することは、人権感覚を育むためには重要なことである。そのためには、学級をはじめ学校生活全体の中で、子どもたち自身が互いに認め合い、豊かな人間関係を構築していくことが大切である。また、子どもたちの人権感覚は、学校だけでなく家庭や地域社会を通じて育まれることから、その連携と協働が不可欠である。

このような視点から、学校・地域の実態に即した、他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、正義感や公正さを重んじる心等、社会を生き抜くために必要な人権感覚を育むための校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 豊かな心を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善

子どもたちに豊かな心を育成することについては、道徳教育として教育活動全体を通して行われることとなっている。ところが、道徳の時間以外の各教科等における道徳教育の実施は、必ずしも十分とは言えない。こうした現状を改善していくためには、子どもたちが、教育活動全体を通して、様々な人間関係を深められるようにするとともに、自己の生き方について考えを深めなければならない。また、他者、社会、自然・環境との豊かな関わりの中で生きるという実感や達成感を味わい、社会参画への意欲や態度を身に付けることができるよう道徳教育の一層の充実を図る必要がある。

このような視点から、家庭や地域との連携を図り、地域の多様な人々や自然・環境等との交流の場を確保し、豊かな関わりの中で人間性や社会性を育み、子どもの内面に根差す豊かな心を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善のための校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

第5分科会

研究課題：豊かな人間性を育む教育課程と校長の在り方

研究発表

たがいに認め合い高め合い心豊かに行動する子どもの育成

石狩地区 千歳市立支笏湖小学校

品田

敏

I 趣 旨

1 豊かな人間性が求められる背景

知識基盤社会への変化、グローバル化等、時代の変化が激しい中、多様な価値観が表出し、人間関係の希薄化が懸念されている。他者との関わりを苦手とする若者が増加しており、コミュニケーション能力の不足がいじめや問題行動の背景の一つであるといわれる。そのため、望ましい人間関係や規範意識の育成は、学校教育において喫緊の課題となっている。

2 具体的内容

そのような中、学校においては、児童が互いに思いやり認め合う心を育てることを重視し、教育活動全体を通じた道徳教育の推進により豊かな心を育てる指導の充実に力を入れていかなければならない。とりわけ、これからの社会においては自己を確立しつつ他者を受け入れ、多様な価値観をもつ人々と共に考え、課題を解決していく力が求められる。

学校教育においても、互いに尊重し合い、協働して生きるためのルールやマナー、善悪を判断する力、思いやりや弱者へのいたわりなどを発達の段階に応じて確実に指導することが重要である。

3 校長の果たす役割

これらを実践するため、校長は、心の教育や道徳教育の充実を図る中で、児童に社会性や規範意識を確実に身に付けさせなければならない。そのための体制づくりや指導の工夫改善などについて、効果的に進めていくことが重要である。具体的には、以下のような方策を展開することが必要となる。

- ① 子どもたちが互いに認め合い、思いや考え出し合う豊かな人間関係を高める教育活動
- ② 人権感覚を育むための教育活動の推進と家庭

や地域社会との連携と協働

- ③ 豊かな関わりの中で人間関係や自己の生き方を深める教育課程の編成と実施及び評価、改善
- ④ 全教職員が心の教育に関わる教育理念を理解し、教育活動全体を通して協働で創造する教育活動
- ⑤ 共通理解を深め、一体となって豊かな心を育む学校、地域、家庭の連携

II 研究の概要

1 石狩管内校長会の研究

石狩管内小中学校長会では、平成25年度より研究主題を「新たな時代を切り拓く『生きる力』を育成する学校教育の確立」とした。これからはグローバル化、情報化、少子高齢化等の時代であり、不透明かつ変化の激しい社会であり、「確かな学力・豊かな心・健やかな体」を基盤とした「生きる力」の育成が学校教育に強く求められる。

〈研究主題〉

新たな時代を切り拓く『生きる力』を育成する学校教育の確立

～ふるさと石狩で学ぶ喜びを実感できる

『知・徳・体』の調和のとれた子どもの育成を目指して～

学校が保護者・地域の負託に応え、信頼を勝ち得るためには、子どもたちに確かな学力・豊かな心・健やかな体を身に付けさせるための取組をしっかりと行うことが重要である。子どもたちが自己肯定感をもち、他人を思いやる心など豊かな人間性を育てることは、石狩管内においても重要な課題である。道徳教育を中心とする様々な教育活動を通じ、自己尊厳や人権尊重の精神を高めることが必要である。以下にその観点を述べる。

第1協議題 平成25年度～保護者、地域の負託に応える学校教育の推進

課題① 命を守る豊かな心と健やかな体を育む
教育課程の管理
〈視点ア〉 自己肯定感を高め、命の大切さを身
に付けさせる道德教育の推進

第2協議題 平成27年度～ふるさと石狩で学ぶ喜
 びを実感させる教育課程と学校評価
 ・学校改善～

課題① 地域の教育素材や人材を生かした教育
 の推進
〈視点ア〉 心を育てる教育素材や地域人材を生
かした教育活動の推進
 ※以上抜粋、下線部が本提言に関わる部分。

2 支笏湖小学校の実践

(1) 豊かな人間性を育む教育課程

① 学校を巡る環境

本校は、昭和57年に現在の校舎が完成した。国立公園内に位置し、これまで、愛鳥モデル校、環境教育モデル校、ボランティア協力校等の指定を積極的に受けてきた。さらには、地域の人々の協力をいただき、地域素材を活用しながら、地域と共に歩む「開かれた学校」として教育活動を進めている。

地域・保護者の学校に対する関心と期待は大きく、つながりは極めて強い。地域行事等への協力依頼も多い中、この地を故郷とする誇りをもち、郷土を愛する子どもたちの育成をねらいとした教育活動に取り組んでいる。

② 校長のリーダーシップ

本校では、特に以下の内容を校長の役割として重要だと考えて実践を進めている。

ア 道德教育を進める上で、教職員の協働がない限り成果を期待することはできない。校長としての方針を示した、共に学校を創る意識を醸成し学校力を高めていく。

イ 地域の関係機関と連携し、外部人材の発掘、活用なども大きな課題であり、校長として関係機関との日常的なつながりが求められる。そのための地域への情報発信も重要な要素である。

ウ 道德の時間については、全学級年1回以上公開している。また、フリー参観日と称して、保護者のみならず地域の方々にも学

校に足を運んでももらえる機会を設けている。特に、学校評議員の方々には、様々な学校行事や日常の生活を見ていただくようお願いしている。

エ 本校では、職員同士が互いに「品田ファミリー」の一員であると声をかけあい、日常的にどんな些細なことでも情報を交換しながら業務を進めると同時に、学校運営に積極的に参加している。一人一人の教職員の力を最大限に引き出していくことで教育活動は充実していく。職員同士が信頼し合い、前進へのチャレンジを続けるよう働きかけている。

オ 本校の特色である大自然に囲まれているという環境、地域と深い関わりをもつという利点の活用である。それにより、マイナスの要素をプラスに考える発想の転換を強く促し、教職員と児童をその気にさせる計画と方策がより良い実践を創っていくものとする。児童は互いに認め合い、高め合う中で道德性を身に付け、自己有用感、自尊感情を高めていく。

カ ヘキ地性の評価のとらえ直しを提起する。

校長としてヘキ地性の評価のとらえ直しをすることを提起した。「ヘキ地」というとマイナスイメージでとらえることも多い。しかし独自の教育活動、特色ある教育活動を展開できる魅力ある環境であることを職員会議で示した。

(2) 具体的な活動

① 人権感覚を育てる

ア 自主性と規範意識、思いやりを育てる縦割り班活動

本校では、日常的な活動のほとんどは縦割り班で行っている。その中では、当然6年生がリーダーとなり活動を進めている。低学年の世話をするのは上級生の当然の役割だということが自覚されている。縦割り班活動を通して、高学年から低学年へ自主性と規範意識が引き継がれている。

イ 道德的実践の場としてのボランティア活動

毎月1回、始業前に支笏湖畔の清掃活動を行っている。児童会としての取組である

と同時に、地域の取組としても行われており、地域の方々と一緒に活動を進めている。子どもたちは、人とのつながりの中で、自分たちの果たす役割を考え、地域に対する愛着を感じることができる機会となっている。さらに学校生活で身に付けた力を試す場として大切な道徳的実践の場となっている。

ウ 地域とともに進める教育活動

地域の活動の大きな部分を「支笏湖自治振興会」が担っている。この「振興会」には校長が理事として参加し、地域行事の調整のみならず、学校経営に関わる様々な協議も行ふ。本校では、保護者の他に地域会員（C会員）という形で地域の方がPTA活動に関わり、PTCAという組織をつくっている。C会員の選出は、振興会の理事会の推薦を経て進めている。C会員の協力により野鳥学習や、クラブ活動の充実が図られていることも大きい。

② 豊かな心を育てる～命の大切さを学ぶ

「支笏湖ふるさと学習」

「支笏湖ふるさと学習」については、生活科、総合的な学習の時間を中心に、各教科・道徳との関連を図りながら進めている。運営・指導体制については、校長のリーダーシップのもと、全教職員が協働しながら指導計画づくりに当たることになっている。また、教務係を中心に、実践と情報の交流、連絡・調整が行われている。

地域の自然を生かした野鳥学習、また支笏湖漁協などと連携したヒメマス学習などを通して、生きるものへの愛着や、生命への畏敬の念などを深めると同時に、一人一人がかけがえのない存在であることを学んでいる。

(3) 石狩管内の実践から

～恵庭市立若草小学校の実践から

若草小学校では、平成25年度から3か年研究として、研究主題「子どもの自尊感情を育む教育のあり方」のもと、道徳教育～道徳の時間を要とした道徳教育の充実～をサブテーマに「①道徳の時間に、資料選定や発問、交流などを工夫し、響き合う・高め合う・認め合う授業を展

開、②各教科や外国語学習、総合的な学習の時間、特別活動と道徳教育との関連を生かしながら指導、③日常の学級経営の中で、一人一人が自立し、仲間と共生し、自己実現を目指すことができる指導、以上の①～③に取り組むことで子どもの心を豊かにし、自尊感情を育むことができるであろう」という仮説のもと研究を推進している。1年目は道徳の授業づくりに時間をかけて取り組み、何よりも収穫だったのは、子どもの自尊感情を育んでいこうという教師の結束した姿であった。2年目は、教科における道徳性の育成をテーマに、豊かな心の育成に取り組んでいくことになる。

III ま と め

- (1) 子どもたちは大自然を舞台とし、あるいは教材として活動し、自然の偉大さ、生命への畏敬の念を感じ取ることができている。
- (2) 学校のみならず、より多くの大人に見守られることにより、善悪の行動判断を身に付けることができるとともに、老人への思いやりの心を持つことができている。
- (3) 児童会活動など、日常の活動の多くを縦割りで行っており、互いを受け入れ、民主的な児童集団ができている。
- (4) これらを総合的に進める教育課程の整備を行い、運営に参画する教師集団が育っている。
- (5) 幼少期から付き合いのある集団であり、友達に対する評価など固定化してしまうことがある。